

JOURNAL



Contents

- 誌上講座レポート…メディア・リテラシー講座……………2
- 特集…くるめフォーラム2014「平和と平等、築くのはいま!」
記念講演「平和と男女共同参画～地域から世界へ～」 堂本 暁子……………3
市民企画・映画……………4,5
- 事業紹介…女性に対する暴力をなくすキャンペーン……………6
- 相談室だより…女性も子どもも自分らしく生きられない!……………7
- 男女平等政策課からのお知らせ…性別に基づく権利侵害は男女平等推進委員へ……………7
- 登録団体紹介…Mellicore(メリコア)……………8
- 図書情報ステーション…子どもを守る……………8

新聞深読みワークショップ

メディア・リテラシー講座(9月6日) コーディネーター 武藤 桐子さん(九州共立大学非常勤講師)

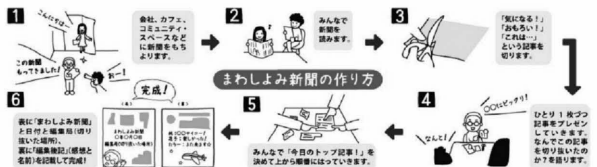


武藤 桐子さん

今年のメディア・リテラシー講座は、初の試みとして「まわしよみ新聞」の手法を活用し、ファシリテーターに西日本新聞社地域づくり事業部の二島朋子さん、コーディネーターに、九州共立大学非常勤講師の武藤桐子さんをお招きして開催しました。

今回は、男女共同参画のテーマに限定したものの、一つの新聞記事でも人によって感じ方や思いが一緒だったり、異なったりして、楽しさ・驚き・共感・気付きの時間となり、さらには、参加者の意見を発表し、まわしよみ新聞を作成するという参加者体験型の講座になりました。

最後のまとめの中で、武藤さんから「メディアから発信される情報の中には女性に対する性差別などの偏った情報もあるため、まず「なぜ？」という疑問をもって、情報を読み解くことが必要。新聞をじっくり読むことで、普段見過ごしている情報を読み解き、新たな発見ができたり、多様な見方があることに気付いたりすることができる。」と語られました。



切り抜いた記事について、思いを語ります



新聞の記事を上手にレイアウト



完成した新聞のポイントをアピール

参加者からは、「参加者同士で意見交換するスタイルは、刺激的で楽しかった。このような形の講座ならたくさん参加したい。」

「幅広い年齢層の方が参加し、色々な視点や考え方があったのが分かった。立場や環境の違う人の考え・意見を知る機会になって良かった。」などたくさんの意見をいただきました。

平和と平等、築くのはいま！

久留米市では、昭和63年10月1日に男女平等を進めるための市民と行政の指針である、「久留米女性憲章」を制定しました。そして平成元年に憲章制定日である10月1日からの1週間を「久留米女性週間」と定め、その記念事業として「くるめフォーラム」を毎年実施しており、今年で26回目を迎えました。

今回のテーマ「平和と平等、築くのはいま！」には、男女の区別なく誰もが平等で、自分らしく生きることが出来、そして安心して暮らせる平和な社会を実現したいとの思いが込められています。

記念講演

「平和と男女共同参画～地域から世界へ～」

講師 堂本 暁子さん

男女共同参画と災害・復興ネットワーク代表、前千葉県知事

このレポートは10月5日に行われた講演の一部を要約したものです。



●平和の再認識

日本は、戦後70年も経っているのに男性の知事は今までに何千人もいますが、女性の知事はたった6人しかいません。現職では47都道府県の内2人だけです。男性だから、女性だからと性別にこだわるのではなく、平和というものは男性と女性とで作るものではないかと思っています。平和な世の中でも東北の津波、地震、広島のと砂災害、そして御嶽山の噴火などの自然災害によって、平穏な生活を乱されています。平凡だと思っている日常がどんなに大事なもののなのかということを私達は再認識しなければならぬ、そのような時代に生きています。

●防災を通しての地域と男女共同参画

災害をきっかけに日頃から地域社会においてお互いを知ることで、綱の目のように人は親しくなっています。人の命を救ったのはインフラではなく、人と人との絆だと思えます。人と人がお互いを信頼し、お互いを大事にし合う地域社会を作ること、それは災害に強い地域社会になり、災害から回復する時の大きな力になります。私たち一人ひとりが自分らしく生き、そして人との交流を豊かに持つことが大切です。近年、自然災害や交通事故や人災も増加し、社会の制度も変わってきています。そういった中で、新しい形でもう一度、人と人との繋がりを持てる良い関係性を構築していくことが、真の意味での男女共同参画であると思います。

●人材育成が大事！

千葉県流山市では、市の講座の修生であり、当時子育て中のメンバー13名で自主グループを作りました。そのお母さんグループは、「子育てMAP」や、「パパの子育てを応援する冊子」を作り、最近では東日本大震災をきっかけに、防災について勉強会を重ね、防災ハンドブックを作成しました。そして現在は、子育て家庭向けの防災キャラバン活動を行っています。彼女たちは地域の現状を把握し、これから何をしたら良いのか考えて行動を始めました。このように私たちは人材育成がいかに大事であるということを知ればなりません。

久留米市は防災会議委員39名中、女性は9人と多く、誇りに思っている良い数字だと思えます。地域の中で、お互いに助け合い、育っていくことが大事です。そこから本当の平和な社会ができ、それこそが誰もが自分らしく暮らせる平和な地域づくりに繋がります。それが沢山広がっていくことによって日本、そして世界も平和な国になっていくと思います。

KURUME FORUM 2014

「平和と平等、築くのはいま!」

9.28(日) - 10.7(火)



市民企画特集

市内32の団体を中心に総勢43人からなる実行委員会が結成され、約半年かけてくもめフォーラム2014の準備が進められました。

期間中は記念講演や映画上映、展示・バザーの他、13団体による講演会やワークショップ、体験コーナーなど、多くの人が男女共同参画について考える機会となりました。

介護保険法の見直し

—どうする要支援者—

介護保険制度を上手に利用し、自分の身の周りのことは自分でできるよう予防にも力を入れることが大事と話されました。

【高齢社会をよくする会・久留米】



決して忘れてはいけない 戦争の記憶

～はだしのゲンが見たヒロシマ～

原作者の中沢さんの被爆体験による平和への思い、核に対する思いを次の世代へ伝えていかなければとの願いを強く感じる上映会でした。

【新日本婦人の会・久留米支部】



女性への暴力根絶の願いを パープルリボンに乘せて

女性や子どもたちが安全に安心して暮らせる社会の実現を目指し、暴力根絶の願いを込めて参加者のみなさんと一緒にリボンを作りました。

【S〜ぶるリボン】



デートDVをなくそう

ワークを通し「デートDVはNO!」と言える自分の意思と勇気を持つことが大事なことと学びました。

【ガールスカウト福岡県第5団】



多様性と就活、就労

“自分らしい生き方と働き方を求めて”

セクシャルマイノリティの就活・就労での困難な実情が話され、どのような支援ができるのか、考える機会となりました。

【あいたた倶楽部】



女性の人権と平和

戦争の歴史背景と実情など、法律を踏まえて詳しくお話しいただき、国民自身も世論を変える力を持つことが大事と強く訴えられました。

【I女性会議久留米支部】



認知症でも安心して暮らせるまちづくり

いつも通る散歩道などをマップにして、仮に行方不明になっても愛情カードで探せる仕組みづくりなどが紹介されました。

【城島女性ネットワーク】



私の衣・食・住と男女共同参画

「女性でもチャンスがきたら飛び出すこと」と両親から教えられたことで、物作りに挑戦し続ける秘訣を話されました。

【北野女性ネットワーク】



平和と平等、築くのは今!

音楽を通して、女性に対する人権や歌詞の中からも家庭の中の男女共同参画などを考えることができました。

【田丸町ネットワーク】



女性・子どもと貧困

～貧困の連鎖を断ち切る～

「子どもの貧困率は16.3%、特にひとり親世帯の貧困率は54.6%と悪化しており、教育の重視や経済的支援など実効性が大事」と力説されました。

【女問研-北京JAC九州in久留米】



男女共同参画の視点で現在の医療事情を考える

医師不足を改善する一つの方法として、女性医師が働き続けることのできる環境をつくることが重要と話されました。

【リプロダクティブヘルス・ライツと環境を考える会】



平和と男女平等

世の中の動きを見て、声を出し行動し、再び戦争に加担することのない社会にすることが大人の責任と熱く語られました。

【福岡県教職員組合久留米支部 両性の自立と平等をめざす教育部会】



身近にいる気になる子 「それって虐待?DV受けてる?」 と感じたら

～私にできるお節介～

被害を受けているかもしれない子どもへの寄り添いや、子どもを支援していくには何が必要なのかと学ぶことができました。

【Support of the Child】



映画 「オレンジと太陽」

2010年イギリス キャスト:エミリー・ワトソン他

ソーシャルワーカーとして働いていたマーガレットは、ある女性から衝撃的な告白を聞く。養護施設に預けられていた彼女は4歳の時にたくさんの子どもたちとともに船でオーストラリアに送られ、自分が誰なのかわからないと言う。それは強制児童移住という政府によって行われた政策であった。その事実を明らかにした実在の女性の物語。

参加者からは、「児童移住があった」ということはこの映画で初めて知った。戦争によって行われたことや歴史上にある人権侵害など、まだまだ知らない事が沢山あると思う」などの声が寄せられました。





女性に対する暴力をなくすキャンペーン

国では11月12日から「女性に対する暴力撤廃国際日」である11月25日までの2週間を、「女性に対する暴力をなくす運動」実施期間と定めています。この期間に久留米市男女平等推進センターで、取り組んだキャンペーン事業の一部を報告します。

【講演会】 難民高校生—路上で出会う少女たちのリアル (11月21日)

講師：仁藤 夢乃さん (女子高校生サポートセンターColabo 代表理事)



高校時代、学校にも家にも居場所がなく月25日を渋谷で過ごす“難民高校生”だった仁藤さん。貧困や虐待の家庭で育ったわけではなく、わずかなすれ違いから学校にも家にもいられなくなり高校を2年で中退。生きる望みを失った仁藤さんに転機が訪れたのは、高校卒業程度認定試験をめざし予備校に通い始め、そこで初めて自分を対等に一人の人間としてみてくれる大人との出会いでした。世の中のことをもっと学ぼうと大学へ進み、東日本大震災後に訪れた避難所ではリストカットの跡が残る女子高校生と『居場所』をつくり夜遅くまで話をしたり、地元の高校生とコラボ

で支援金付きのお菓子の開発にも取り組みました。国際協力のボランティアもしていましたが、JK(女子高校生の略)を売りものにする産業が広がっていることに危機感を覚え、社会的に孤立し困窮状態にある少女を支援する『女子高校生サポートセンターColabo』を立ち上げました。女子高校生と男性が2人きりで散歩ができる『JKお散歩』や、女子高校生と個室で肩もみなどをとする『JKリフレ』などは、アルバイト感覚でやっけてもそのうち感覚がまひし、風俗などに引き込まれる危険性のある仕事です。行き場のない少女たちは、売春や犯罪の温床になるような場に知らず知らずのうちに引き込まれていきます。同じような経験をした自分だから聞けることがあると、仁藤さんは女の子たちに寄り添い、話を聞いています。「いま少女たちに必要なものは、困ったときに誰か話を聞いてくれる人、少女たちを理解し向き合ってくれる大人、そんな少女たちの居場所づくりです。大人の私たちが本気で関わって少女たちと『ともに歩む人』になってほしいです」と話されました。

【理論と実践ワーク】 親子で学ぶ護身術2014 (11月15日)

講師：橋本 明子さん (WEN-DOインストラクター)

「WEN-DO」は、痴漢などの被害から身を守るための護身術です。4組の親子を含む11名の参加者が簡単な自己紹介を行い、実践に取り組みました。ペア同士で被害者役と加害者役を決め、『手首をつかまれたら?』『後ろから抱きつかれたら?』『加害者が3人いたら?』など、具体的な状況下での動きについて学びました。参加者の中には、蹴りや拳を振り下ろすことはできても、大きな声を出すことに対しては恥ずかしい様子もありましたが、基本的に動作は覚えやすく、スムーズに実践することができました。

講師は「自分の身につけた知識や経験は自分のものだけではなく、他の人に分け与え繋げていくことで最終的には自分の所に戻ってくる」と話されました。最後に、全員で円陣を組み「Who is your boss?」(あなたのボスは誰?)への問いに「I am!」(私!)と3回叫び、改めて自分のことを守るのは自分であると再認識しました。



「WEN-DO」インストラクター
橋本 明子さん



親子で実践の様子

相談室だより

●女性たちの健康と安全が阻害されています

相談室には、平成26年4～10月の時点で既に約2,400件の相談が寄せられています。相談の多くは、DV、ストーカー行為、身内を含む異性からの性暴力、非正規雇用による就労不安、パワハラ、セクハラなどで、そこには女性たちが健康で安全に安心して暮らすことのできない日常があります。

●「子の貧困」は「母の貧困」の結果です

昨今、子どもの貧困問題がクローズアップされていますが、子どもの貧困は他でもなく親が貧困だからです。平成25年度の厚生労働省の国民生活実態調査によると、子どもの貧困率は、過去最悪の16.3%に達しており、ひとり親世帯、特に母子家庭において貧困は顕著です。母子家庭で働いている母の52.1%が非正規雇用であり、世帯の平均年収は223万円しかなく、一般家庭の46%という統計もあります。（平成26年厚生労働省「ひとり親家庭の支援について」）

このような経済的な事情の中、子どもにかける教育費に格差が生じ、結果、子どもが安定した就労に結びつきにくく貧困の連鎖になっていると指摘されています。母子家庭の収入アップは、緊急に改善を要する課題です。また、母子家庭の中でもDVが原因の離婚の場合は、さらに状況は過酷ですが、女性たちは、厳しい環境の中でいかに自分らしく生きるかを模索しています。

●ひとりひとりの生き方に寄り添います

毎日の相談の中で女性たちが、DV、性暴力などのない安全な社会の中で安心して生きるための支援の必要性を痛感します。

相談室は、男女平等の理念のもと「女性の生き方支援」をスローガンに日々訪れる相談者と向きあい、女性たちが心から笑顔を取り戻せるようひとりひとりの生き方に寄りそっていきたいと思っています。

性別に基づく権利侵害は男女平等推進委員へ

あなたは「女性であること」「男性であること」で不利益を受けていませんか。

地域、職場、学校において、「性別で差別的な取り扱いを受けている」「セクシュアル・ハラスメントなどの人権侵害を受けている」等、相手方何らかの改善を求めたいときや「市の施策や事業が男女平等に反している」等、市に改善を求めたいときは、弁護士等3人の専門家で構成する男女平等推進委員に申し出ることができます。申し出に対し、同委員が個別に調査などを行い、必要に応じて相手方や市に改善を求め、解決にあたります。

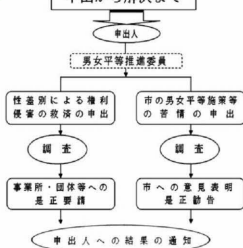
平成15年度から現在まで34件の申し出に対応してきました。

◇申し出の例◇

- ・男女で退職金の金額が違う。
- ・地域の清掃作業等で女性だけに不足金が課せられる

※久留米市役所ホームページより男女平等推進委員で検索すると過去の申し出と処理結果が表示されます。

申出から解決まで



電話番号 0942-30-9246
FAX番号 0942-30-9703
月曜～金曜 8:30～17:15
(祝日・年末年始を除く)
E-mail danjoin@city.kurume.fukuoka.jp
問 男女平等政策課 (0942-30-9044)

「メリコア」は、女性がそれぞれの資格や技術を活かして、仕事をしていくための拠点を作りシェアすることを目的に結成しました。名称は、1枚1枚の花びらを重ね合わせる一つの花のように作るブーケの一種、メリアブーケとコア(中心・核)をあわせた言葉。一人ひとりの個性が花びらのように集まり、可能性を広げ、心から自分らしさを見つけていける場所にしたいとの思いが込められています。

当初は3人だったメンバーも30人に加え、今ではメンバーの技術をメニュー化して、毎日教室を開いています。ママの生の声が授業になるマラスクールやメンバー同士の勉強会、おしゃべりカフェなども開き、ママたちの悩みを解決に導いています。

あらゆる女性たちのチャレンジの場として主催したファッションショーの舞台では、一般募集したモデルの女性たちが、乗り越えてきた悩みや家族への思いを語り、彼女が一步を踏み出すきっかけ作りをしました。

ママたちが一步を踏み出す チャレンジの場を作っていきたい

メンバーは、皆、自分の目標に向かって前向きに努力をしています。将来を考える同志ができ、子どもつながりではない自分自身の仲間ができました。

これからは、医療機関や教育機関、福祉施設等いろいろな場で、自分たちの技術を活かし、社会とつながり貢献することをめざして活動していきます。



子どもを守る

図書情報ステーション

女性や子どもが安全に安心して暮らせる社会をめざして、子どもたちを守るために大人が今できること、子どもへ伝えられることについての図書を紹介します。

DV・虐待にさらされた子どものトラウマを癒す

お母さんと支援者のためのガイド

ランディ・バンクラフト 明石書店 2006年

DVや虐待を受ける母親や子どもが安全と自由を手に入れられるよう支援が必要です。子どもの苦しみを和らげ、健全で幸福な人生が送れるよう援助の方法や指針が示された貴重な1冊です。



わたしのからだよ！

ジェニー・ハートロッシュ ビデオ・ドック 2001年

子どもを性的虐待から守るための入門書です。性的虐待の加害者は、虐待を受けたことを誰にも言わせないように子どもをしむけます。だから性的虐待防止には、子どもが虐待について、必ず誰かに話すようにしておく必要があります。子どもと大人がいっしょにみるための絵本と、メッセージをより効果的に伝えるための教本があります。



「いや！」というよ！

性ぼうりょく・ぎゃくたいにあわない

嶋崎政男・監修 あかね書房 2006年

「大人からいやなさわわり方をされたら」「大人から何度もひどい言葉を言われたら」など性暴力や虐待について子どもにもわかりやすく知識と考え方を伝えます。自分を守るためにはこんなことができるよと「じぶんをまもる力」を育てるための絵本です。



●編集・発行●
平成26年12月

久留米市男女平等推進センター

〒830-0037

久留米市語野町1830-6

スーパージア久留米内

TEL 0942-30-7800

FAX 0942-30-7811

URL <http://www.city.kurume.fukuoka.jp>

E-mail danjo-o@city.kurume.fukuoka.jp



- 徒歩/高鉄久留米駅から約10分(約700m)
- バス/高鉄久留米駅から約5分
JR久留米駅から約20分
「税務署前」下車、徒歩3分
- 駐車場(有料)はございますが、おいでの際はなるべく公共交通機関をご利用ください。

この会報誌は環境に配慮し、再生紙を使用しています。